

令和3年度「長久手市役所の仕事」通知表の作成（外部評価）②

令和3年9月22日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和3年度行政評価・外部評価② 「清掃センター運営事業」【環境課】
開催日時	令和3年9月22日（水） 午後3時10分から午後4時10分まで
開催場所	市役所北庁舎2階 第5会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 石橋健一、田村佳子、樋口和則、細萱健一、安立憲市 <担当課> くらし文化部長 浦川 正、環境課長 富田俊晴、 ごみ減量推進係長 大谷 悠 <事務局> 総務部次長 福岡隆也、行政課長 若杉雅弥、 課長補佐 伊藤 愁、庶務係長 加藤優作
傍聴者人数	1人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

外部評価実施者の 意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・学生や単身世帯の意識が低いとの分析だが、コロナ禍で学生もアルバイト収入がなくなっており、実家に帰る学生もいる。卒業後も含めて学生が賃貸住宅から引っ越す際のベッド、タンスの家具のリサイクルの仕組みなど、学生に絞った啓発、施策をするだけでも効果が期待できる。 ・市で不要な家具を引き取って、提供する取組があってもよいのではないか。 ・環境ビジネスの視点で企業を活用できるとよいし、大学としても取り組むべき課題である。 ・対象をある程度絞った啓発であれば、SNSなどの活用も重要と思う。 ・今年度から資源回収奨励金が廃止され、廃品回収をやめてしまった子ども会もあると聞くが、地域拠点回収の設置に向けて、奨励金の廃止は意欲を低下させるのではないか。 ・地域のつながりづくりは、地域の拠点回収の本来の目的ではなく、ごみの減量、資源回収率UPを目指すことが本来の目的ではないか。
-----------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの強化が目的というのは、違和感を感じる。地域が回収拠点の運営を担うことは重荷になるのではないか。 ・資源回収拠点を地域コミュニティのつながりを形成するための取組としたいというのは、自治体や子供会による廃品回収への補助金打ち切りとの整合性が取れないため、もっと丁寧に説明すべきである。 ・地域による資源回収の仕組みを検討する前に、別の面で地域の力をもっと活用する方法を検討してはどうか。例えば、地域住民にごみの分別等がしっかりされるよう、出されたごみの個別チェックをお願いしたりするなど、具体的な対策を行うことの検討も必要ではないかと感じる。
--	---

<p>講評・まとめ</p>	<p>ターゲットを学生と単身者に絞った効果的な対策、啓発活動を検討、実施していくことが重要。</p> <p>地域と連携し、協力を得るためには、市の考えを丁寧に説明し、理解を得ながら進める必要がある。</p>
---------------	---